

敬和学園大学と地域社会を結ぶコミュニケーション誌

# KEIWA

## COLLEGE REPORT

創刊号

〈APRIL 1993〉



CLOSE UP

カルチャーギャップ 大海 宏

INTRODUCTION / SPECIAL REPORT

教員紹介 / 特集 ヴォランティアを語る

第2回 敬和学園大学公開講座報告 / キャンパス日誌



### 〈表紙絵の説明〉

敬和学園大学が所有する名画の第1号は、田中忠雄画伯による「十字架を背負うイエスを見て恐れ惑う弟子たち」です。1991年に本学が開学したとき、田中先生から記念に頂いたもので、罪とがのないイエスが、ゴルゴタの丘をめざして、自分の十字架を背負いながら、よろよろと歩いていきます。弟子たちのうち、誰一人として、主の十字架を代わって背負うものはなかったのです。彼らはただ顔を見合わせて恐れ惑うばかりでした。イエスはなにゆえに十字架を負い、その上で息絶えなくてはならなかつたのでしょうか。これは私たち一人ひとりに問われている問題です。

田中忠雄先生は1903年に札幌で牧師の子息として生まれた方で、これまでに聖書に基づいて数々の名画を発表してこられました。この作品を前にして、本学のチャペル・アワーで元気な声で学生諸君に話された日のことを思い出す人も多い筈です。



### 〈白鳥の表敬訪問〉

1991年3月、本学は開学を前に、第一期生の受け入れの準備にいそしんでいました。そんなある日、これだけ多数の白鳥が側のたんぽに降りてきました。あたかも本学を表敬訪問するかのように。写真家として一流の腕前をもつ本学の仙澤計美事務局長が、この記念すべき瞬間を、見事にカメラにおさめました。

# CLOSE UP

## 会社と大学のギャップ

敬和学園大学に来て一年が経過した。四十近く銀行、会社勤めをやってからの転業であったから、まさに異文化体験、大袈裟に言えばカルチャーギャップ、カルチャーショックの一年だった。先生と呼ばれ同僚を先生と呼ぶこと、自分のオフィスを「研究室」と称することなどは今でも照れくさい。

最も本質的な落差は、四十年私が生きてきた文化の原理、即ち市場メカニズムとか競争があまり強くは働かない世界だということである。働いているのかも知れないが、どうも基準が違うのである。私の従来の職場では、ピラミッド型の組織が確立している。上司と部下の関係は絶対だった。勤務検定、信賞必罰というアメとムチで上役は部下を支配できた。評価の究極的な基準は業績をどれだけ伸ばしたかである。客を増やした、売上げを、利益を増やした従業員には昇給と昇進が約束される。一番大切なのは売上げと利益をもたらしてくれる顧客である。その成果を極大化するための技法がマーケティングである。これを大学にあてはめて、市場調査、商品開発、品揃え、販

売促進、デリバリーパートサービスなど、各段階にその機能を分解して組み直してみたら、少し分かり易くなつたような気がした。とはいえ、競争と市場の意識が薄い業界であることは否定できない。

## 服部君の悲劇

カルチャーギャップとかカルチャーショックは異なる文化と文化がぶつかって発生するものだから、典型的には国や民族を異にした場合出会わす事ともであろう。最近の事件では、昨秋ハロウィーンの日にアメリカで銃で射たれて亡くなった名古屋の高校生服部君のことがある。ルイジアナ州へ留学、ホームステイ中だった服部君が、仮装をしてパーティへ向かう途中、誤って他人の家に近付いた。怯えたその家の住人が銃を構えて「フリーズ」と怒鳴ったが、その意味が分らなかつた服部君はそのまま家人に歩み寄ろうとして射殺された。しかも加害者が有罪になるかどうか保証はない（「正当防衛」が成立つかも知れない）という。

無残なカルチャーギャップとしか言いようがない。服部君の場合は、先ず言葉を完

# カルチャーギャップ 大海宏

全に理解できなかったこと（カルチャーギャップの一観念）と、その時の状況から実弾が今にも自分の胸目がけて飛んでくるなどとは夢にも考えられなかつたことである。実はこのFreezeという言葉、英語に通じている積りの私自身も、「動くな！」

「手を上げろ！」という使い方は知らなかつた。念の為辞書にも当つてみたが、「氷を張らせる」「凍らせる」「ぞっとする」くらいしか書いてない。アメリカ人に聞いたら、テレビの刑事物ドラマではよしょ中出でてくる使い方で、警官も犯罪者も公用しているそうである。

もう一つは銃砲社会のアメリカと非銃砲社会の日本との際立つ違いであろう。アメリカには西部開拓時代から自分の命は自分で守るという伝統的觀念があり、日本には豊臣秀吉の刀狩り以来の「武器不拡散」主義が根付いている。

当然のことながら、日米のマスコミの扱いにも天地の差があった。事件はアメリカでは新聞に乗るほどのニュースではなかつた。日本では騒然となつた。マスコミは連日関係者や有識者の談話なり論評を流す。

高校生の留学是非や日米関係の悪化懸念なども議論になつた。一部のテレビでは、

# CLOSE UP

アメリカで自衛のため知つておくべき英語表現を教える番組も作られた。服部君のお父さんは銃砲制限をアメリカに求める運動を起こした。日本国内のこういった反応が今度はアメリカのメディアの興味を引いた。アメリカでニュースになったのは日本発の記事や映像だった。

## 新潟と東京

異国間、異文化間にギャップが存在するのは当たり前である。北欧の人が太陽を感じる感謝と憧れは灼熱の砂漠の民（太陽は呪うべきもの）には通じない。外国に限らない。東京に住む私は今でも新潟の冬、雪、太陽（の乏しさ）を理解できていない。

（一月の一日前平均日照時間は、東京五時間三十九分に対し、新潟は何と一時間四十五分である。）ついでに言えば、東京人は、明治前半には新潟県が全国一の人口大県であつたことを知らない（明治二十三年の第一次総選挙では、新潟県の衆議院議員定数は全国最多の十三人、東京都の十二人を上回っていた）。新潟県の当時の人口と現在の人口はほぼ同じである。人口の最大の流出先は東京であった。東京一極集中の最大の被害者（それとも加害者？）は新潟県民だった。今東京都民の三人に一人は新潟県人だとする説もある。戦前の統計だが、東京の風呂屋の半数と豆腐屋の六割、それに神田の古本屋の大部分は新潟県人の経営だという。こういった事実の多くを、新潟系二世、三世を含め東京人は知らない。

でもやはり、カルチャーギャップの最大の源泉は言葉の違いであろう。勿論代表的

には異国間の場合であるが、同質性を誇る

日本のことだから国内に言葉のカルチャー

ギャップはないと思つたら間違いである。

私は、当地でシンダイが新潟大学のことだと悟るまでに若干の時間がかかった。よそでは、特に関西ではシンダイと言えば神戸大学のことであり、お隣りの長野県では、もちろん信州大学を意味する。私自身、名古屋で母校名古屋大学は皆メイダイと呼んでいたので、東京へ出た当初は明治大学の出身と誤解されることがあった。また新潟県を三分割して上越、中越、下越と呼ぶやり方がなかなか呑み込めなかつた。昔上越線で上越のスキーチームに通い、今上越新幹線を活用する私には、上越とは上州と越後だという認識が滲み込んでいる。地図では下が上越で上が下越というのも直観による理解を妨げる。私は相当期間上下を取り違えていた。

## 難しい外国とのギャップ

外国語となればギャップとショックはぐくんと増幅する。しかし私の経験では、相手の言葉が自分の全く知らない外国語である場合はむしろ大きな問題は生じない。お互いにその積りで心の準備を整えるからである。共通の言葉を話していると思い込んでいる間柄が危ない。第二次世界大戦直後、食料不足に悩むイギリスがアメリカに対し小麦の援助を要請した積りで、Cornを送れ電報を打つたら後日トウモロコシが船一杯届いたそうである。アメリカ英語でCornはいわゆるコーンである。イギリスでの源泉は言葉の違いであろう。勿論代表的

という。

私自身ロンドンに勤務していた時、部下のイギリス人に彼の執務態度を軽く注意する積りで、貴君のattitude云々と言つたら、意外な反発を食つた。Attitudeは日本語の「態度」と同義語と思い込んでいたが、詳しく調べてみると、むしろその人の信条とか価値観に近い重い意味を持つている。職場の上司とはいえ、信条を改めよと言われたら誰だって心穏やかではない。私が注意したのは彼のbehaviour（行儀、振舞い）とでも言うべきところだった。

会社レベルで発生するカルチャーギャップ、カルチャーショックも多い。この冬就職内定者の内定取消しで最初に新聞記事になつた有名企業はコダック社の日本法人だつたと思う。日本の社会慣行を十分理解しない行動だった。アメリカの論理からすれば、会社は株主のものであり、内定取消しだらうが従業員の解雇だろうが会社業績のために有益なことは早く実行すべきである。そうでなければ、取締役会は株主に対する義務違反に問われかねない。ところが日本の会社は相対的に従業員本位制で株主本位制でない。社会責任への監視も厳しい。会社の規範について両国間のギャップは大きい。今回の事件は、内定を取り消された学生と、日本社会の反応に一驚したコダック社の双方にとって大きなショックだったに違いない。しかし、日米いすれの会社文化が会社の業績をより早く確実に立ち直らせるかは、全く別の問題である。カルチャーギャップ、カルチャーショックは国家と国家の間にも多く存在する。最も密接な関係にある日米間でむしろ問題が深刻化する。最近の例で

は日米半導体協定である。

日本が一九九二年末の半導体輸入を国内市場の二〇%に引き上げる約束をしたかどうか。その達成が不可能になった今、日米間で水掛け論が続いている。日本側は「単に努力目標。大体アメリカ側に供給能力と意欲がない」と強調しているが、アメリカ側は「約束違反。制裁措置を」と息巻いている。日本の慢性的な貿易黒字を難詰され、何とか考えましょう」とその場逃れを言つたのが、先方ではコミットとかプロミスと記録される。他には、近い将来コメの問題で大規模なカルチャーショックに見舞われる恐れがある。「コメは日本人の心」といった情緒的な主張が海外に通るとは考えにくい。

これを究めること、第一に外国语を最低一つ使いこなせるようにすること、第三に海外の相手（相手国）のことを十分研究して知識を身につけること、の三つを重要視している。

極めて具体的に日常レベルのことを言えば、外国で発行される新聞や雑誌を購読するのが、特に第一、第三の必要条件を満たすために有益である。日本の新聞雑誌は（言葉の問題を別にしても）確かに読み易い。しかしさまざにこの点が曲者で、日本の読者に波長を合わせ過ぎている。日本の新聞、雑誌を毎度「何を書き落としているか」といった視点で読めればかなり国際人といえる。これらに加えて、高い教養と良い趣味が備わったら申し分ない。一言で集約すれば、学びたいという気持ち、学ぼうとする意欲ということになろうか。それは取りも直さず異文化と異文化の担い手に対して敬意を抱くことを意味している。

英語の教職免許を取ろうとする学生は、英語英米文学科に在籍して、卒業に必要な一二四単位を取得することが前提ですが、その中に法学四単位と「英語の教科に関する専門教育科目」二単位を履修する必要があります。

残念ながら国際文化学科には教職課程が認められていません。そのため、在学生の中では、教職課程を取りたい学生十数名が、国際文化学科から英語英米文学科に転科することになりました。

図書館でも教職課程に必要な書物を約二千六〇〇冊を購入し、四月に備えていました。本学を卒業して地元の中学や高等学校で英語を教える人々がつぎつぎに出てくることを楽しみにしています。



## 真の国際人

個人レベルでも、会社レベルでも、国家

レベルでも、海外

とのカルチャーギャップを埋め、カルチャーショックを和らげる

られる人が眞の国際人あるいは役立つ国際人である。

異文化コミュニケーションを有効に遂行できる人と言つてもよい。そのための必要条件として、私は、第一次自分の専門分野を一つ確立しそ

## 英語の免許が取れます！

人文学部であり、英語英米文学科であ

るのに、中学・高校の英語教員の資格がもらえないなら、退学して、もらえる大学へ行きます、と言って、大粒の涙をためて学長に訴えた女子学生がいました。

このような学生を失望させないためにも、本学では教職課程を設置することがどう

しても必要であると判断し、昨年九月に、英語英米文学科に中学と高校の教諭一種免許（英語）の資格を取得できるよう、文部省に申請しました。このため、あらたに教育哲学と教育心理学の専門家を招くことになりました。その認可がついに三月三十日におりました。

英語の教職免許を取ろうとする学生は、英語英米文学科に在籍して、卒業に必要な一二四単位を取得することが前提ですが、その中に法学四単位と「英語の教科に関する専門教育科目」二単位を履修する必要がありま

# 教員紹介

## 金子哲夫

「で解るか！」と言つていました。が私も全く同感です。休まずに聴講して下さい。



卷町で生まれ、東京大学理学部数学科卒業後、卷高校をへて新潟大学理学部数学科に勤務し、主に確率統計を担当していました。

一九六〇年頃の新潟大学にコンピュータが導入された頃には情報処理は統計学の一部とみなされていたので、統計量を求めるプログラムを作成する実習講義を数年間担当しました。

あの頃のコンピュータは実際にやつたりしたもので、二進法の「一」か「〇」かで点滅する電球列を見ながら自分のプログラム

した計算の進行状況を楽しんでいた学生もいました。

敬和での統計学の講義では、文系の学生に話すのだからなるべく数学を少なくしようと私は思っていますが、現代統計学が確率論と一体となっているため、また私自身確率論の研究を中心として統計学を学んできただこともあります。ある先生が「数学の本を一頁おきに読ん

## 菅野 浩



一九一五年、新潟市で生まれた新潟市で育つ。東京大学理学部化学科卒業後、新設の新潟大学理学部化学科に勤務、一九六五年大学院が設置されて以後生体物理学講座を担当した。一九七一年六月から一年半程ボストンのハーバード大学で研究生活をおくったほかは新潟で過ごし、一九九一年三月定年退官、四月から本学に勤務した。

授業課目は「自然科学概論」、内容はエネルギー・宇宙・地球環境・生命の四トピックスにわたる。エネルギー・地球環境問題は今後の人類生存にかかる深刻な問題であり、宇宙生命科学は現在進展の激しい分野であるが、やはり人間と文明の未来を考えるためにも欠かせない視点を提供する。いまや人類はいろんな問題で国境を越え、さらに地球の外へとさえ出てゆこうとして

いる。つぎの世代を担う学生諸君には、自然科学概論の授業の中からこれからの科学技術について、人間の生き方について、考える素材を見出してほしいと願っている。

## 安藤司文



「知能とは何か」について考えはじめてもう一〇年近くになります。『知能とは何か？』と大上段に構えると分からなくなりますが、日本人は日本語を使って毎日考えながら生活しているわけですから、人間の知能について考えたかったら日本語の研究をすれば良いということがすぐわかるはずです。しかし、言語の研究といえば文法ですが、文法は人間の知能を解明しようという面から研究されませんでした。私はロボットをもつと賢くするにはどうすれば良いかと云うことから研究をはじめ、人工知能の学習、推論、物語理解、知識獲得、機械翻訳を経て言語の研究にたどりつきました。そして、いろいろの分かれました。当たり前のことはですが、知能に関する能力があるということです。もいろいろな能力があるということです。

百メートル競走やマラソン、相撲などスポーツでも多種多様です。それぞれ必要な能力が異なっていることは誰でも知っています。ではなぜ大学入試試験ではセンター試験

のような単純な試験しかしないのでしょうか。

大学受験者に一斉に一〇〇メートル競走をさせて、マラソン選手、相撲取りなどに振り分けているようなのです。人間の能力には、教科書を勉強して良い点をとる能力（演繹能力：覚える能力）と、何故何故を連発して問題を発見する能力（帰納能力：考える能力）があります。勉強の仕方、問題のとらえ方が、全く異なります。これらは考える能力の方が大切になるでしょう。敬和学園大学は“考える”人のための大

## 久島公夫

一九四二年新潟市栃尾市に生れた。新潟大学卒業後、県内の高校に四年間勤め、一九七〇年から二十年余り広島工業大学に勤務してきた。本学には開学と同時に着任し、現在、一般体育の体育実技と保健体育理論を担当している。

専門とするスポーツ種目は、陸上競技の跳躍種目。北信越インカレでは走り高跳びで四連覇したが、当時はレベルが低くクラブ活動に熱中した割には強くなかった。

研究のテーマ

マとしては、これまで大学の生活習慣と体位、体力の関係を取り上げてきたが、現在は中高齢者を対象と

して喫煙、飲酒、運動などの日常の生活習慣が体力、血圧、血清脂質やその他の血液生化学検査値に及ぼす影響に焦点を当てている。

受験勉強の影響もあり、大学生の体力の低下が以前から指摘されている。また、平均寿命の延長や出生率の低下を考えると、健康の保持増進は今後ますます大切になってくる。保健体育の授業を通じて、スポーツを楽しみながら自分自身の健康を創っていく態度や実践力を培つていただけたら幸いである。

## ジエイムズ B・ブラウン



一九四八年 上海生まれ、日本育ち。日本と中国で勤めたことがあるのでアジアに住む経験が長い。大学の専攻は政治学

で、大学院では英語教育法を勉強した。現在、英会話および時事英語を教えている。現在、日本では「国際化」という表現がはやっていて、具体的に日本という国、そして日本人がどのように変わるべきかははっきりしていない。まず第一に日本の文化、習慣などを国際社会に伝えること、それが非常に重要である。今までの受験勉強英語が、国際交流に対する役に立たないことが認識されてい

しかし、実際に使える英語を学ぶ上で受験勉強技術を使用すれば大失敗になる。つまり勉強をすることよりも、スポーツと同じように練習すればするほど上達できることは確実である。英語教育の研究では国際交流と実践的な英語が中心である。敬和学園大学生が国際的日本人になることを望んでいる。

## 山田耕太



その延長として、聖書の舞台を巡る念願の夢がかなったのだった。コリントやフィリピの遺跡では時を忘れて佇んだ。ローマ時代の神殿、浴場、街道、広場、市場、商店などの遺構がそのまま残っている。

空寒い冬の日差しを浴びながら、パウロが捕えられた法廷の土台の前に座り

# INTRODUCTION

込んで、ギリシア語聖書を播くと、得も言われぬ感動に包まれた。

パウロは今は廃墟となつた町をしばしば訪れ、手紙を書き残したのだった。その遺跡が眼前に広がっている。泉は水をたたえ、床にはモザイク画が残り、人々の息遣いが伝わってくる。しかし、パウロも手紙を受け取つた人々も、遙か二千年前に地上を去つたのだ。だが、その言葉はまるで昨日にでも書かれたかのようだ。

キリスト教学の講義は時には耳慣れぬ議論になるが、この感動をすこしでも伝えることができれば、この講義がいつか何らかの形で花開いてくれば、という思いで教壇に立つている。空に向かって立つ糸杉の梢と、遠くに聞こえた鶴の鳴き声が、今も鮮やかである。

## 佐藤 渉

読者の方々には申し訳ないが、フランスから帰つたばかりで、時差抜けに苦しみながらペンを走らせている。まるで壊れた時計のような頭は、思うように働いてくれない。これは、今回に限つたことではない。

放浪癖があるせいか、休みがあれば、旅に出ることが多い。だから休み明けは、おおかた時差抜けとともに始まる。だが旅は、私の専攻分野——フランス語・フランス文学（むしろフランス語で表現された文学、フランス語文学）——と深い係わりがあるかも知れぬ。外国语を学ぶということは、自分が生まれ育つた社会（文化）からべつの社会への、いわば未知らぬ土地への旅に似ている。しかもフランス語は、二十以上の国々

で母国語や公用語などとして用いられてゐる国際語だ。その意義は、フランス語が使われてゐる土地へ実際に行ってみなければ、充分には理解できまい。つまり私にとって、フランス語を教えることは、比喩的かつ現実的な「旅への誘い」に他ならない。



## 桑原ヒサ子

一年生に「ドイツ語I」、三年生に「ドイツ文学」を教えています。

私の専門であるドイツ文学の中でも、これまで主に戦後文学を研究テーマにしてきました。現在の興味の中心は、一八世紀初頭から一九世紀末までの史劇の発展と衰退を跡づけることになります。こうした研究の一端を「ドイツ文学」で扱います。しかし、授業の重心は、その時間数からいえば「ドイツ語I」にあるといえます。

新しい外国语の修得には、予習・復習にかなりの時間が必要で大変です。しかし、勉強すればそれだけ身についてゆくもの確かなのです。

昨年ドイツ語技能検定が発

## 斎藤祐介



一九五六年

静岡県生まれ。  
慶應義塾大学

法学部卒業後、  
同大学院法学  
研究科博士課程  
を経て、昨  
年四月に本学  
着任。一般教

育科目の「政治学」を担当。専攻は国際政治学。以下の関心領域は戦後の冷戦史ならびに米国の対外政策で、とくに国家安全保障の観点から米国の中東・南西アジア地域への関与を歴史的に考察している。

言うまでもなく、古くから外交史・国際政治の基本的かつ中心的な課題は畢竟、戦争と平和の問題であり、そこでは国家間の武力行使をも容認する権力政治（power-politics）がもつとも重要な要素とされてきた。二十一世紀を目前に控え国際間の人的、文化的交流やいわゆる相互依存が進展し、国際社会が高密度化する今日においては、すら先に述べた本質は不变であろう。国際政治の理解にとってこの点がいわば切所と

いってよい。冷戦終焉後の国際情勢の推移が何よりもそれを雄弁に物語る。三〇年前に暗殺者の凶弾に倒れ、米国のクリントン大統領が師と仰ぐ故ジョン・F・ケネディ大統領の次の警句が、依然としてその簡明さと一種の諷刺をもって響く所以こそにある。

Domestic policy can only defeat us,  
but foreign policy can kill us.

## 孫野義夫



新潟大学では言語学と英語学を担当してきました。

この敬和学園大学でも大筋同じです。

専門分野を選ぶにし

て、それを永く続けるには好奇心という支えがあってのことです。勉学の成果から今までどの程度であったかということよりも、好奇心の豊富な学生が好きです。下手の横好きという言葉もあります。好奇心の対象が同じ連中がわいわい集まつて騒ぐのも結構です。が、おのの個性的な好奇心を競いあう方がはるかに愉快です。偏差値を競いあうのとは、趣が違います。いや、ぜんぜん異なります。そんな学生にいつも接していきたいと思っています。何をしているかよりも、どんなにそれを追っかけているかが当方の興味的です。そして、好奇心の面白いところは、年齢の差で威張る

ことができないことです。老教授と新米の大学生とが、お互いに好奇心を誇りあっても不思議ではありません。この敬和学園大学のキャンパスには、そんな空気まであります。

## 上野恵美子

九州大学で指導教官だった大江三郎先生は、「恩師」だの「弟子」だのと言うのが嫌いな人だった。懇切丁寧に指導して育てるタイプの人ではなかった。私はお世話になつたが、学問的にそれほど影響を受けたという意識もなく、就職した。

だが、教育・研究者として自立するにつれて、私は極めて大きな影響を受けていることを実感することになる。「ことば」に対する基本的な姿勢ある程度確立したと意識したとき、その出発点はまさにこの人にあるのだと、間違ひなく私はこの人の弟子なのだ、と思った。

大学院修了後、長崎の短大に就職、四年生大学開設後そちらに移籍、そして昨年敬和学園大学に来た。専門分野は英語学、授業課目としては英文法や英語学演習等を担当する。認識と言語表現についての研究上の関心を、授業にやさしい形で生かしてゆきたい。

大江先生にはとても及ばないが、「ことばにはこんな面もあるん

## 北島藤郷



九年四月より、英語英米文学科で教鞭を執っています。英語II AではD・キーン先生のエッセイを読みました。英米文学購読Bでは、E・コールドウェル、B・マラッド、T・ウィリアムズ、I・ショーン・カーヴァー等の短編アンソロジー・テ

A・ミラーのドラマを味読しました。長らくアメリカ南部文学という磁場に引き寄せられて研究しています。南部文学に見られる自然描写に親近感を覚え、諸作品中に、温暖で湿潤な空気が漂っているのは、故郷の原風景に酷似していることと日本と同じ照葉樹林帯に属しているせいではないかと考えています。

以下のところ、ヘミングウェイやフィッツ・ジエラルドの「ときロスト・ジェネレーション」の作家たちからはじまって、ニュー・ロスト・ジェネレーション、さらにはミニアリズムの作家たちまで、アメリカ文学を「青春」というテーマで論じてみたいと思っていますが、作家たちの隔壁や、意外に焦点が拡散してしまい、視座の設定に腐心しています。

文学ジャンルにおいて、小説の衰退が

## INTRODUCTION

われてから久しくなるが、原書で作品を読破する楽しみを学生諸君に是非とも伝えたいという意気込みで教えています。

### 野村 啓治

ウィスコンシン大学（マディソン校）の大学院を終え、新潟の専門学校と東京の大学での勤務を経て昨年本学に着任しました。出身は新津市で趣味は卓球とヨットです。

本年度担当教科は英語II A、英語表現法B、英語学演習I（英語演説の理論と実践）ですが、来年度は、それらに演習IIとコミュニケーションが加わる予定です。専門はスピーチコミュニケーションで、現在は主に異文化間ににおける説得理論に興味を抱いております。



### 片桐 邦郎

一九二六年生まれ、というより大正十五年五月の生まれである。大正末期から昭和初期の「大正ロマン」の時代に育ち、戦争戦後をへて今日に至っている。三代の江戸っ子。

旧制中学（府立五中）から、戦争末期に陸士に入学、復員して慶應義塾大学に進み、大学院を経て慶應で三十余年間教育研究の生活を過ごした。

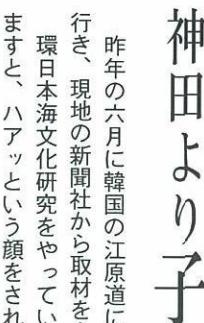
敬和学園大学とは、設立申請の時からの縁であるが、昨平成四年三月、慶應義塾を停年退職して、四月から着任した。

現在、文学、欧米文化論、文化論演習を担当している。



### 大海 宏

趣味は旅行（海外は西欧だけでなく東欧からアラブ圏の諸国も巡り歩いた）、ドライビング、音楽、絵画の鑑賞など。学生諸君と美術展などに一しょに行ければ嬉しいと思っている。



通算五年半の在米中に、真っ赤なフォルクスワーゲンで米国大陸横断自動車旅行を一二回体験しました。今でも机上に広げた地図を眺めながら、かつての若き情熱をもう一度、と思いを馳せることができます。

学生諸君には、英語学習を通して異質の文化に触れ、視野を広める中で、自國文化と異文化、それに自分自身とを相対的に眺め、その中でぜひ自己のアイデンティティを明確につかみ、さらなる自己の向上へと進んで欲しいと願っています。

名古屋で生まれ、育った。学校は、幼稚園から大学まで名古屋だ。先祖は江戸時代尾張徳川藩に仕えた武士だった。名前で暗



示にかかった訳でもないが、小さい時から関心があった。

成人したらどんな手段を使つても海外に行きたいと思つた。

簡単に相手が現れる筈もない。結局一九五四年二十二歳の時フルブライト留学生としてアメリカへ渡ることができた。

住友銀行に就職した。国際関係業務、特に外国為替売買の仕事を長くした。狙いの海外勤務は英國八年、オランダ二年であった。

敬和学園大学では国際金融論と商学を担当する。ビジネスの世界で実戦は豊富に経験したが、体系的に学問として学生に教えるのは生涯初のことである。私自身大いに勉強しなければ職責が果たせない。それがむしろ新鮮な刺激だ。新潟の新天地と若い諸君に日々接することができるのも幸せである。

### 神田 より子

昨年の六月に韓国の江原道に祭りを見に行き、現地の新聞社から取材をされました。環日本海文化研究をやっていますと言いました。ハッという顔をされてしまいまして。新潟県をはじめ、我が日本海沿岸の住民にとつては当たり前の「環日本海」という言葉が、すぐには伝わらなかつたよう

です。そこで「あなたのお国ではトンヘ（東海）と言っているところを、我々日本人は日本海と言います。その海の周辺の文化を研究する学問です」といった説明を加えまして、はじめて納得してもらうことができました。

このことは昨年暮の新聞のコラムにも書きました。ここで同じ話を再び持ち出すのは、「所変われば品変わる」ではありませんが、文化が違えば、そこに住む人々の考え方も当然違うのだ、ということを言いたかったからです。我々日本人人が「環日本海圏」という地域を考えるときにも、この環日本海に面した他の国々は、一方ではヨーロッパやアラブそして他の東アジアの国々とも境を接しているのです。

東西の冷戦が終わり、今まで想像もできなかつた近くて遠いお隣りの国々とも、本当の意味でお隣り同志の付き合いができる環境になってきました。ところがお隣りの人々が何を考え、何に価値観を置き、何に喜びを見出してきたのか、そんな基本的な事柄を私たちはありませんに過ぎないでしまいました。「日本海」と「トンヘ」（東海）にもこちつてしているのですから。

ところがこうした違いを知るというところから、文化理解が始まるのではないかと思うのです。私が考えていること、これが



絶対ではない、ということを知ることが、お隣りの国々の事を知る第一歩になるのではないかと思うのです。

## 石倉 依子



現代は国際化の時代である。各方面で国際化が叫ばれ、豊かな国際的な視野を持つことが、若い人たちに求められている。外国语の会話を習得することは、そのための一つの条件である。実際、異文化の中で生きてきた人たちと、共通の言語で語りあえることは、すばらしい経験である。ただし、その場合重要なことは、単に外国语を話せるというだけでなく、それを用いて対話する「内容」を持っているということである。と思う。対等の立場で、内容のある会話ができるはじめて、質の高い国際交流が可能となるのである。自分の頭で考え、自分の意見を持つことの大切さを、外國の人たちとの交流を通して、私自身、常に痛感させられている。

私は、本年度は、「ドイツ語II」「キリスト教史」「文化論演習I」を担当する。

学生のみなさんと、以上のことに留意しながら、異なる社会、文化について、共に考えてゆきたい。



## 永野 茂洋

国際基督教大学

(ICU) の学部  
と大学院、研究所  
で学んだ後、昨年  
本学の国際文化学  
科に着任しました。

本学では専門科目  
の「比較文化論」  
と「キリスト教史」、  
一般教育の「キリスト教」、それに三・四年次生  
の「文化論演習」を担当しています。

専攻は旧約聖書学。特に旧約文学と古代イスラエル法思想史、社会史が目下の研究領域です。大学院時代にたまたまK・バルトとM・ヴェーバーに触れたのがきっかけでこの領域に頭を突っ込むようになりました。

日本ではマイナーな分野ですが、古代イスラエルは、メソポタミアやエジプトに連なるアジア的な要素と、ギリシア・ローマから中世、近代へと流れ込むヨーロッパ的な要素との境界領域に位置しており、それらの出会いと衝突の中から、古代では他に例をみない独特の文化と個性の主張に向かった注目すべき地域です。そこに生きた無名の人々の生み出した旧約聖書の多様性と豊かさを伝えられればと思います。

この世界は、大部分の学生にとって、この大学に入って初めて触れる世界ではないかと思いますが、広く現代の諸問題や、人間とその歴史、あるいは人間の文化的営みとその問題に关心と想像力を持つ学生にとって、この世界の知識は、少なくとも、これまでの自分と自分の世界を相対化するための大きな財産になるものだと思います。

# 特集

## SPECIAL REPORT

### ヴォランティアを語る

ヴォランティア委員会

委員長 松崎 洋子

敬和学園大学のヴォランティア活動プログラムも三年目を迎えようとしています。

私たちがヴォランティア活動を一年次、二年次の必修プログラムとして全学に取り入れているのは全国の大学でも非常に珍しいケースです。本学がヴォランティア活動を重視しているのはそれが私たちの大学の建学の理念のひとつであるキリスト教主義の実践面での重要な一翼をになうものであるとともに、学生一人々が自分だけがこの地球に生きているのではないという単純な事実を前にして、ヴォランティア活動について考え、実践し、これを「ごく当たり前のこと」と受け止め、卒業後も自然なかたちで活動を続けて欲しいと願うからでもあります。

一年生はオリエンテーションを中心に、グループに分かれ、様々な社会福祉施設や作業所の見学またそこができる範囲で実際に手伝いをさせていただくというものです。二年生は各自が夏休み前に出した計画に基づき、それぞれ独自に活動するというスタイルですが、昨年は新潟市で「第二六回全国ろう者体育大会」という大きな催しがありましたので、七十名ばかりの学生がそのお手伝いをいたしました。

その他、「昨年と九月のヴォランティア活動週間には学生と教職員による手作りの「敬和学園大学ふれあいコンサート」を開き、

近在の障害者施設の方々をお招きし、楽しんでいただきました。

この二年間多くの方々のご協力をあおいでの手さぐり状態で前述のような活動を続けてきましたが、私たちのヴォランティア活動はまだしっかりと根づいたわけでも軌道に乗ったわけでもありません。毎年五〇〇人もの学生全員がボランティア活動をしてもらうのは困難を伴う事業といえましょう。

活動終了後の学生のレポートを読んでみますと、この活動に対する実に様々な反応がみられます。プログラムに参加し、自分が全く知らないかった社会の一端にふれ、活動の意義を理解しようととする学生も増えてきている一方で、いい事だと分っていても義務づけるのは「ヴォランティア」という言葉の意味と違うではないかと強く反発する学生もいます。そうした影響でよう、か、研修先の方々に学生の活動に「自主性」、「積極性」が欠けるという指摘を受けたり、実際の活動面でもご迷惑をおかけしたことあります。

必修プログラムとする以上、このような問題を避けて通ることはできません。学生の意見に對しては率直に耳を傾け、いやいやのスタートであっても、それがヴォランティア活動について、また社会の中の人間ということについて、自分の中に何かを開ききかとなるような幅の広い、更に充実した活動を心がけています。新年度からはこのような目的にそつて、ヴォラ

ンティア活動の定着と年間を通じての活性化、学生への一層キメ細かな対応を目指し、新発田市社会福祉協議会前事務局長の小川文勝さんを本学のヴォランティア主事としてお迎えするようになりました。小川さんは一九五四年三月新潟大学教育学部を卒業後、水原町立水原中学教諭を皮切りに、新潟県内の中学校教頭及び校長を歴任され、その後県立病院附属等看護学院でも教鞭をとられました。また、一九八八年から一九九二年三月までは社会福祉法人新発田市社会福祉協議会事務局長として、新発田市を中心とした広域の社会福祉の向上のため活躍されており、教育及びボランティア活動分野で幅広い経験と学識をお持ちで、このようなリストには最適の方です。

過日、私立大学連盟の大学設置基準大綱化以降の大学のあり方に関する研修会で、敬和学園大学という小さな大学の小さな試みである、必修プログラムとしてのヴォランティア活動が大きな関心と共感を呼び、私たちには意を強くいたしました。

大学のヴォランティア委員会と小川主事とのドッキングで本学のヴォランティア活動への取り組みはいよいよ本格的になりますが、私たちは本来のヴォランティア精神そのままに肩をいからせることがなく、地道な活動を続けていきたいと思っています。

ボプラの家にて



## SPECIAL REPORT

# 障害児と共に

桐生清次

「人は全世界をもうけても己が命を損したら何の得にならうか。」これは聖書の言葉です。

人はどんな人でも内に秘めた貴いものをもっています。その貴いものは命であり、人格であり、魂であります。

教育は英語でEducationと言います。eは外へ、d u cは引っ張り出すという意味です。人間が内に秘めた貴いものを外へ引き出すことが教育なのです。教育は命と命、人格と人格、魂と魂の触れ合いなのです。それでは教師はそんなに人格者かと言われますが、一生懸命努力していることが貴いのです。

キリスト教独立学園高等学校創設者、故鈴木彌美先生がよく私に話してくれた言葉です。教育はまた共育であるとも言われます。障害をもつ生徒達の教育をしているとそのことがよく分かります。重い障害をもつ生徒にかかるわばかりは、生徒や親によって私が育てられているのです。

## 伸夫の新聞

十二年前、本丸中学校へ転校して来た年だった。クラスでは知恵遅れの女生徒二人と、伸夫の三人しかいなかった。

伸夫は重い自閉の生徒で一人では遊びに出れない生徒だった。交流授業は、いつも迎えに来てもらわないと行けないし、休憩時間には、女生徒が遊びに出ると、伸夫は一人で車の絵を描いていた。車の絵を描くのが大好きなので、作業では黒台紙に新聞のチラシの車の絵を切り抜いて貼らせた。それが好きで教室に貼るとうれしそうに眺めていた。それに伸夫の書いた車の絵を新聞としてコピーし生徒に持

た。新聞は、休日でも家で作って来た。一年間で二百号を越えた。

私は表彰することにして賞状を手渡そうとするところであったが、伸夫の新聞は一日も休むことはなかつた。

## 女と一緒に暮らしたい

七月のある日、M社の専務から突然電話があった。

「先生、朝夫君が無断欠勤していましてね。今日も休んだので家に電話したら、父親が朝夫は会社を辞め、新潟の女と一緒に暮らすと言って今、出掛けたところだと言うので、急いで社員を説得にやった所です。先生からもよく話をしてやってください」

朝夫は軽い知恵遅れで、十年前、学級を卒業し市内のM社に就職した。兄と姉は家を出て、朝夫と両親の三人だけだった。

給料は本人に渡すとすぐ使ってしまうので、会社で貯金してくれ、毎月必要なだけやることにしていましたが、ボーナスは、親がもらうと朝夫はおれの金だと父親に文句を言った。会社では直接本人に渡していたが、遊びに行き一晩でほとんど使ってしまった。

そんな朝夫を学校へ呼ぶと、背広姿で、高級腕時計をし、煙草をくわえた格好でやって来た。会社ではおれはとっくに二十才を過ぎたし結婚したいんだ。その女は美人で、優しいんだよ。今、新潟でアパートを借りて住んでいて、隣の部屋が空いたから、おれにも来いというんだ。あの女は気の毒なんだよ、昼は喫茶店、夜はバーで働いてもお金がないと言うんだ」

他の生徒も作ったが長続きはしなかった。伸夫の新聞は、休日でも家で作って来た。一年間で二百号を越えた。

私は表彰することにして賞状を手渡そうとするところであったが、伸夫の新聞は一日も休むことはなかつた。

二年生になると一年生に遊び上手な生徒が四人も入って来たため、新聞を作らなくなってしまった。そんな伸夫との競争もあって、私の便りは、現在まで十二年間続き、三千号を越えた。

桐生清次（きりゅう せいじ）

昭和8年新潟県生まれ。日本大学卒業後、東京大学にて教育心理学を学ぶ。昭和45年から特殊学級を担任し、新潟大学教育学部講師、新潟県特殊教育学会理事などをつとめる。福祉活動にも力を入れ、親たちと共に中条町や北蒲原郡の精神薄弱者育成会「手をつなぐ親の会」をつくり、ミニコロニー「大峰寮」の誘致や、福祉作業所づくりに力を尽くす。その間、NHK厚生文化事業団から心身障害福祉賞、新潟県特殊教育研究会から教育功労賞、社団法人新潟県精神薄弱者育成会から社会福祉功労賞、上村忠雄賞などを受ける。

著書「この子たちは今」(新潟県特殊教育学会推せん図書)

「この子たちと共に生きる」(北越出版)「次の世は虫になんでも」(日本図書館協議会選定図書)、NHK FMドラマ放送、芸術祭参加作品「越後の慈母さま」「捨られしこのちつかつて」(日本図書館協議会選定図書)、(柏樹社)「先生大好き」(一休社)など

新潟県新発田市立本丸中学校教諭(特殊学級担任)

全日本著作家協会会員

敬和学園大学保護者

現職

そして、女の生活費とアパート代は自分が働いて出してやるんだと言った。

「新潟でアパート生活をすると、毎月八万円はかかるぞ。月給は手取八万五千円だから、小遣いは残り五千円しかないぞ」

「五千円もあればバチンコもできる」と朝夫は言う。

私は困った。とっさに

「新潟は新発田より、アパート代が高いから八万五千円はかかってしまう」と言つた。

いくら教えてても女と一緒に暮らしたいと言いつた。会社に迷惑のかけどうしな朝夫を、私はどうにかして会社を辞めさせたくはなかった。そこで戦法を変えた。

それなら先生が世話してやるから、その女を連れ来いと言うと、女の名前も、アパートの住所もわからない。お金はやつたが手にもぎらなかつたと言つた。

なぜこんな純真な子をだますんだろう。十年も勤め、一生懸命働いてやつと月に八万五千円もらえるようになつたのにと私は心が痛んだ。

翌朝、「朝夫は時間前に出勤してきた」と専務から電話だった。

## 両親の面倒を見る好子

知恵遅れの好子は、二十一才で、会社員と結婚した。しかし、幸せな生活は長くは続かなかつた。結婚して三年後、好子は職場で作業中、利き腕を機械に挟まれ重傷を負つた。その後、半年も経たないうちに、夫が病死し好子は離縁させられた。それでも夫には一〇〇〇円の生命保険があつたため、翌年、好子は町外れに小さな家を建て、一人で住み働いていた。

父親は体が弱かつたし、母親は脳こうそくで倒れたため、好子は二人の兄たちと一緒に住んでいた両親を引き取つた。

私が訪ねた時、

「この子は早く夫に死に別れ氣の毒でねえ、私は三人の子供がいるが、めんどうみてくれるのはこの子だけだ」と母親が言つた。

「だって血のつながつた親子だもの、親のめんどうを見るのはあたりまえだよ」と好子は言つた。

今、好子は三十三才、自分の働きと両親の年金で

生活している。

数年前、母親が一度目の発作を起し、下の世話が必要になつた。父親も交通事故にあつたが、幸いなことにけがも軽く、家の留守番や買い物ができるまでに回復した。好子は働きに行く時、父親に母親の面倒をみてくれるよう頼んで出かけた。

週、二回、町のホームヘルパーが来てくれ、デイサービスでお風呂に入れてもらえる。両親を老人ホームに入れよう勧めてくれる人もいたが、ホームでは親子のようなわけにはいかないと好子は断つた。

「これ以上、病気、災難、事故さえなければ、いつも幸せな日だと思って暮らそう、と言う母あちゃんの言葉を本当に思つてゐるんだ。愚痴をこぼしてもしょうがないものね」

好子はたくましかつた。夫と死別した時、自殺まで考えた好子が「死ぬことよりも生きることを考えられ」と母親に諭され、年老いた両親の面倒を見ながら、一生懸命生きている。

## 奉仕の精神 240人が実習

敬和学園大学

新発田市の敬和学園大学の学生約二百四十人

が十七、十八の両日、同市と市周辺の養護老人ホームなどの福祉施設で一齊にボランティア実習を実施、奉仕の精神を学んだ。

キリスト教精神を掲げる同大では、ボランティアを大学教育の重要な一環として位置付け、昨年から活動に取り組んでいる。ことしは十六日から十九日までを「ボランティア・ウィーク」として学生に活動への参加を求めている。

十七日は一年生全員が同市のほか新潟市や村上市などの約三十の福祉施設を訪れた。新発田市内の特別養護老人ホーム「二の丸」（中林謙園長）には、十人が訪問。ちょうどこの日が秋の運動会ということで、学生たちは戸外でお年寄りの車いすを押し、にこやかに話しかけるなどして触れ合いを深めた。入居者たちもふだん顔を合わせない若者たちとの会話を楽しんだ。

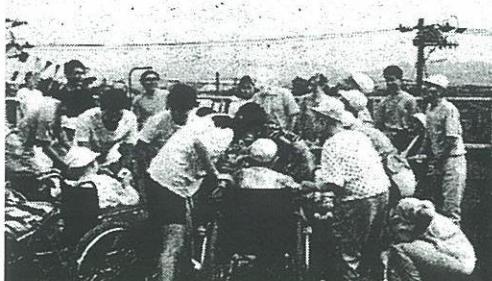
同大ボランティア委員長の松崎洋子教授は、「これを見きつかけに、個々の学生にボランティアの精神が根付けば」と期待している。

一九九二年一月（土）

新潟日報 下越版

職員や寮母さんに交じって、学生も自分たちでできる範囲でボランティアを実践し

た＝新発田市



ふれあいの家 芋掘り

## ヴォランティア活動を終えて

国際文化学科 二年

長谷川 晶子

### ヴォランティア活動の研修先施設一覧表

社会福祉法人七穂会「虹の家」  
福祉作業所「希望の家」  
「のぞみ工房」  
「水原郷福祉作業所」  
新潟県「緑風園」  
「いじみの寮」  
下越障害者福祉事務組合救護施設「ひまわり荘」  
聖籠福祉作業所「すぎの子の家」  
新発田市立本丸中学  
豊栄市福祉作業所「歩みの家」  
養護盲老人ホーム「胎内やすらぎの家」  
新発田市しば草会通所作業所  
「ひしも会作業所」  
「つくし会作業所」  
「さくら会作業所」  
(株)三和コーポレーション  
社会福祉法人二王子会特別養護老人ホーム「二の丸」  
養護老人ホーム「あやめ寮」  
日和浜福祉作業所  
大山台福祉作業所  
東福祉作業所  
「ふれあいの家」  
川端福祉作業所  
「ポプラの家」  
「とっさか」  
「わかば作業所」  
「浦田の里」  
村上市福祉作業所  
新潟県基準寝具(株)  
「若草寮」

### 「敬和ふれあいコンサート」参加施設一覧表

新潟県基準寝具(株)  
わかば作業所  
社会福祉法人七穂会「虹の家」  
福祉作業所「希望の家」  
「のぞみ工房」  
水原郷福祉作業所  
「大峰寮」  
聖籠福祉作業所「すぎの子の家」  
新発田市立本丸中学  
豊栄市福祉作業所「歩みの家」  
新発田市しば草会通所作業所  
「ひしも会作業所」  
「さくら会作業所」  
(株)三和コーポレーション  
「ほがらか作業所」  
「ポプラの家」

※そのほかにも個人で多くの方々がご参加下さいました。  
ご協力いただきました施設の方々にこの場をお借りして、心から厚く御礼申し上げます。

私は、今年の夏、短期留学でカルフォルニア州を訪れた。そこで、私は、カルチャーセンターへ行き、職を持たないために食糧が十分でない人、衣服をもらいに来る人達に触れる機会が二日間与えられた。その一日を私がどのように感じたか、日記に納められているので、かいざんまでつづってみるとことにする。

今日は、ここに来て一番大きなショックを受けた。協会へヴォランティア活動に行つたのだが、あまりにもひどすぎる光景であった。衣服をハンガーにかけていると、人がもらいにやって来る。中には下着もあった。途中で涙が出そうで、抑えるのに必死だったが、結局ダメだった。同じ人間なのに、恐怖を持つてしまつた自分が情けなくて…。山田先生に「現実を見なさ

い」と言われた時、胸がいっぱいになった。自分は、福祉の道に、自分の将来を進めたいという気持ちは、甘いものだということを思い知らされた。(八月十三日)

今日は、台所の清掃をした。腐ったバナナを喜んでもらっていく人達を見て、言葉をなくしてしまった。まさに天と地獄をここでみせられた。(八月十四日)

言葉では言い表わせないくらい、私は絶望した。しかしそれらのみすぼらしい姿は、私の明日かもしれないと思うと身の毛もよだつほどだ。自分の将来の職も考えさせられた二日間であった。

私は今年、もう一つ、第二六回全国ろうあ者体育大会にも参加した。ゲートボールのお手伝

いをした。手話が一つも分からぬ私には、神経を使うものであった。アメリカでも言葉の壁を強烈に感じたのに、ここでもやはり同じことを思った。健全者には分からぬ苦しみがある。私達の言う事が聞けないというのは、ただ単に人が動いているということだけしか見えない。彼は、会社や社会において、ある一定の地位に就いても、それ以上の位には上がれない。というのは、重要な会議に出席しても言葉が分からぬし、自分の意志をも伝えることが出来ないという。人間は、絶対に一人で生きていいくことは出来ない。社会は人々の助け合いから成るものだ。自分には、関係ないとは、絶対に言えないのだ。

初めてろうあ者の人達や職を持ってない人達に接して、今の自分がどんなに幸せであるかを感じた。やはり、私は、ハンディを持つ人々のために何か自主的に行動したい。福祉の方へ進みたいと強く感じた夏であった。

(夏期短期留学でのヴォランティア活動と第二六回全国ろうあ者体育大会、ヴォランティアに参加)

# 第一回 敬和学園大学 公開講座報告

概要  
祭りごとを軸にスライドを交えながら、  
テーマに掲げた三地域の「おんな」について考える。

受講者の感想  
新発田市も歴史・民俗の宝庫といえようが、先生の宗教人類学の講義を受けた後では、身近な行事のなかにも意味があることを感じた。

## 第一回 十月九日（金）

来賓として新発田市から近寅彦市長、聖籠町から伊藤永壽助役を迎えて開講式を行った。

講師

伊藤 豊治 教授

テーマ

「嵐が丘」と「ボバリー夫人」——ロマンチズムVSリアリズム——

概要

愛をテーマとしているが、ロマンチズムとリアリズムという異なる作風の二作品について解説する。

受講者の感想

日常の生活から離れて、文学という世界について触れることができた。日本との作品を読むことが多かったが、今後は外国の作品も読んでみたいと思う。

受講者の感想  
ハムレットが復讐にいたるまでの過程を十分理解することができた。ハムレット自身の経験や家庭的背景が復讐にどのようにかかわっていったのかを興味深く聞いた。

## 第三回 十月二十三日（金）

講師 アラン ブロンデ 助教授

テーマ

ハムレットの意味と死の意味

概要

作品の主題は何かということを基本に、復讐に至るまでの状況を、ハムレットを取り巻く環境から詳しく考察する。

また、ハムレットが「死」の物語ということを提起し、受講者自身の再考を促す。

受講者の感想  
ハムレットが復讐にいたるまでの過程を十分理解することができた。ハムレット自身の経験や家庭的背景が復讐にどのようにかかわっていったのかを興味深く聞いた。

## 第二回 十月九日（金）

講師 伊藤 豊治 教授

テーマ

「嵐が丘」と「ボバリー夫人」——ロマンチズムVSリアリズム——

概要

愛をテーマとしているが、ロマンチズムとリアリズムという異なる作風の二作品について解説する。

受講者の感想

日常の生活から離れて、文学という世界について触れることができた。日本との作品を読むことが多かったが、今後は外国の作品も読んでみたいと思う。

受講者の感想  
ハムレットが復讐にいたるまでの過程を十分理解することができた。ハムレット自身の経験や家庭的背景が復讐にどのようにかかわっていったのかを興味深く聞いた。

## 第二回 十月十六日（金）

講師 伊藤 豊治 教授

テーマ

「嵐が丘」と「ボバリー夫人」——ロマンチズムVSリアリズム——

概要

愛をテーマとしているが、ロマンチズムとリアリズムという異なる作風の二作品について解説する。

受講者の感想

日常の生活から離れて、文学という世界について触れることができた。日本との作品を読むことが多かったが、今後は外国の作品も読んでみたいと思う。

受講者の感想  
ハムレットが復讐にいたるまでの過程を十分理解することができた。ハムレット自身の経験や家庭的背景が復讐にどのようにかかわっていったのかを興味深く聞いた。

## 第四回 十月三十日（金）

講師 伊藤 豊治 教授

テーマ

「嵐が丘」と「ボバリー夫人」——ロマンチズムVSリアリズム——

概要

愛をテーマとしているが、ロマンチズムとリアリズムという異なる作風の二作品について解説する。

受講者の感想

日常の生活から離れて、文学という世界について触れることができた。日本との作品を読むことが多かったが、今後は外国の作品も読んでみたいと思う。

受講者の感想  
ハムレットが復讐にいたるまでの過程を十分理解することができた。ハムレット自身の経験や家庭的背景が復讐にどのようにかかわっていったのかを興味深く聞いた。

九二年度に引き続き、新発田市、聖籠町のご協力をいただいて一九九三年十月九日から十二月十一日の毎週金曜日の夜、十回シリーズで公開講座を開催した。

会場は、大学（第一回のみ）および新発田市公民館。

受講申込者数は、八十六名。一回ごとに講師とテーマが異なる講座があつたが、毎回、六十名前後の出席があつた。開催時期が晚秋のため悪天候であつたり、仕事を終えてからの参加者が多かったにもかかわらず、熱心な受講姿が目立つた。また、「仕事でどうしても出席できない講義があり、残念だ。」という声もよく耳にした。主催者側としては嬉しい限りである。受講者層について見ると、女性が六割を占め、年代別では、四十代が最も多く、ついで五十代・六十代と続く。気のあう友人同志や、ご夫妻揃っての参加も多く見受けられた。

各回の内容は次のとおりである。

## 第二回 十月十六日（金）

講師 神田 より子 助教授

テーマ

おんなのくらし 西と東—沖縄、韓国、東北日本をくらべて—

受講者の感想  
ハムレットが復讐にいたるまでの過程を十分理解することができた。ハムレット自身の経験や家庭的背景が復讐にどのようにかかわっていったのかを興味深く聞いた。

## 第四回 十月三十日（金）

講師 佐藤 渉 講師

テーマ

アフリカの村で考える

## 概要

アフリカの中でフランス語を公用語としている地域について、ビデオを見ながら考へる。

## 受講者の感想

ほとんど知られていないアフリカ村をかいだ見た。部族語だけの世界から抜け出すためには、国語、さらに公用語が必要であり、また、国際化への道でもあることを学んだ。

## 第五回 十一月六日（金）

講師 安藤 司文 教授

テーマ 産業用ロボットの誕生から自然言語まで

概要 産業用ロボットの誕生から自然言語まで

民間研究所時代のロボット開発の過程や苦労等について語る。また、人工知能から展開させた自然言語の構築や多言語同時教育についてぶれる。

## 受講者の感想

ロボットへの研究プロセスに興味深いものがあった。また、教授の発想力に驚かされる。今後の研究が非常に楽しめである。

## 第六回 十一月十三日（金）

講師 山田 耕太 助教授

テーマ イエスはなぜ処刑されたか

概要 マルコ、マタイ、ルカ、ヨハネによる



第2回公開講座 神田 助教授

## 概要

代表的な女性作家であるオーツ、ジョン、ウォーカー、プラスと作品を、時代背景について考えながら紹介する。

## 受講者の感想

男性社会の中で作り上げられた差別、男の無意識の中にひそむ差別感、このなかでもがく女性たち（アメリカ社会でさえも！）、人種差別などを改めて意識づけられた。

## 第八回 十一月二十七日（金）

講師 金子 哲夫 教授

テーマ 賭博と確率論

概要 賭博の流行によって発生した確率論について、統計学を用いて解説する。

## 受講者の感想

パascalの手紙の中に確率論が論じられていると聞いて、パascalに親しみを覚え、確率論が身近なものに感じた。

## 第九回 十二月四日（金）

講師 斎藤 祐介 講師

テーマ 現代の戦争

概要 第一次大戦後に勃発した戦争についての特徴、政治的背景等について考察する。

## 受講者の感想

現代の戦争は善と悪の戦いではないと

## 第七回 十一月二十日（金）

講師 松崎 洋子 教授

テーマ アメリカ文学：

一九六〇年以降の女性作家達



いうことだったが、結局戦争を起こすのが人間であることを考へると、戦争の理論づけが虚しく感じられた。

表的な作品である「貝の火」と「銀河鉄道の夜」を主な資料にしながら考へる。

#### 受講者の感想

大変わかりやすい講座で、これまであまりよくわからなかつた宮沢賢治に一歩近づけてくれたと思う。

最終回修了後、閉講式を行い、受講者に北垣学長から修了証が授与された。

宮沢賢治にとって「天国」とは、どういうものであったかという問題を、代

## 第十一回 十二月十一日(金)

講師 安藤 弘 教授

テーマ 宮沢賢治の「天国」

### 1993年度 入学試験結果

<1993年3月24日現在>

(単位:人)

区分		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学手続者数	競争率	
推薦入試	英語英米文学科	50	89(58)	89(58)	66(50)	66(50)	1.35	
	国際文化学科	50	87(34)	86(34)	65(25)	64(25)	1.32	
	計	100	176(92)	175(92)	131(75)	130(75)	1.34	
一般試験	(一)次	英語英米文学科	40	170(75)	157(68)	62(40)	31(17)	2.53
	(二)次	国際文化学科	40	155(48)	143(43)	72(27)	50(17)	2.00
	計	80	325(123)	300(111)	134(67)	81(34)	2.24	
合計	(外国人留学生のぞく)	英語英米文学科	10	58(25)	54(23)	17(11)	( )	3.18
	国際文化学科	10	56(13)	45(11)	17(6)	( )	2.65	
	計	20	114(38)	99(34)	34(17)	( )	2.91	
(外国人留学生のぞく)	英語英米文学科	50	228(100)	211(91)	79(51)	( )	2.67	
	国際文化学科	50	211(61)	188(54)	89(33)	( )	2.11	
	計	100	439(161)	399(145)	168(84)	( )	2.38	
留学生	英語英米文学科	100	317(158)	300(149)	145(101)	( )	2.07	
	国際文化学科	100	298(95)	274(88)	154(58)	( )	1.78	
	計	200	615(253)	574(237)	299(159)	( )	1.92	
外国人留学生	英語英米文学科	若干名	1(0)	0(0)	0(0)	0(0)	-	
	国際文化学科	若干名	(1)	3(1)	0(0)	0(0)	-	
	計	若干名	4(1)	3(1)	0(0)	0(0)	-	

注: ( ) 内は女子で内数。

各回とも、様々なテーマで行われ、好評のうちに終了した。受講生からは、「講義から何か吸収して行こう」という意気込みが感じられるため、講師も、大学での講義以上に熱が入っているようだつた。九三年度も開講を予定しているが、また、多くのみなさまに参加していただけたらと願つてゐる次第である。

# FROM CAMPUS

## キャンパス日誌 PART 1.



8/27 新発田まつり民謡流し

### 11月

- 1~3 第2回敬和祭
- 4 第20回教授会
- 5 学術講演会「中世キリスト教美術におけるユダヤ教の要素」  
講師 ヘブライ大学美術館研究員  
アフーヴァ・ホイットマン女史
- 6 公開講座⑤ 安藤 司文教授
- 7 事務職員採用試験(二次・面接)
- 10 隣接地10反後援会・地権者間で賃借契約締結
- 11 桜苗木70本植樹 寄贈 新発田市商工会議所青年部  
隣接地埋め立て開始



11/11 新発田商工会議所青年部寄贈  
桜苗木70本植樹

〈1992年〉

### 8月

- 27 新発田祭り民謡流し参加  
学生・教職員約50名参加

### 9月

- 9 後援会役員会
- 11 サンバナディノ校  
リンダ・キャシー、ループレイ両先生来学
- 14~19 ヴオランティア・ウィーク  
第2回敬和ふれあいコンサート
- 18 オレンジホール・アナックス起工式

### 10月

- 7 第19回教授会
- 9 公開講座開講式 公開講座① 伊藤教授
- 15 アングロコンティナル  
ロビー・サンダー先生、CTC福島女史来学
- 16 公開講座② 神田助教授
- 23 公開講座③ ブロンテ助教授
- 24 事務職員採用試験(一次・筆記)43名受験
- 29 JR佐々木駅・大学間バス運行開始
- 30 公開講座④ 佐藤講師



11/1~3  
第2回 敬和祭

- 12 敬和学園創立25周年記念式典のため休校
- 13 公開講座⑥ 山田 助教授
- 20 公開講座⑦ 松崎 教授
- 27 公開講座⑧ 金子 教授

## FROM CAMPUS

12月

- 2 第21回教授会  
4 公開講座⑤ 斎藤 講師  
5 推薦入試 175名受験  
9 第22回臨時教授会  
11 公開講座⑩ 安藤 弘 教授  
12 推薦入試合格者発表



12/18 クリスマスキャロリング

## &lt;1993年&gt;

1月

- 9 外国人留学生入試2名受験  
13 第23回教授会  
23 外国人留学生入試合格者発表

2月

- 1~10 学年末試験  
10 県内学長・知事懇談会  
11~3/31 春期休暇  
12 一般入試(一次)300名受験  
16 第24回教授会  
19 一般入試(一次)合格者発表  
27 編入学入試4名受験

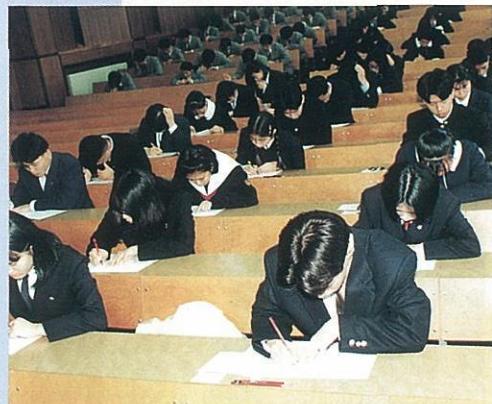
3月

- 3 第25回教授会  
4 オレンジホール・アネックス竣工引渡式  
編入学入試合格者発表  
18 一般入試(二次)99名受験  
22 第26回教授会  
24 一般入試(二次)合格者発表  
30 教職課程設置認可証授与式

キャンパス日誌  
PART.2.

12/18 クリスマス燭火礼拝

- 18 クリスマス(キャンドル・サービス、  
キヤロリングパーティー)  
19 大学・高等学校教職員合同研修会  
後援会役員会  
21~1/9 冬期休暇



3/12 入学試験